

ゲンジボタル

ホタル類の中で、一番有名なホタルです。成虫は全体的に黒色で、胸部は淡赤色で中央に十字状の黒い模様があります。オスよりメスの方が、体が大きいです。

生息する環境として、水がさらさら流れ、空中湿度が高く、周りに草やコケが生え、暗いところなどが挙げられます。幼虫は基本的にカワニナしか食べません。

富士市では、5月下旬から6月中旬ころに成虫を見ることができます。成虫は日中、葉などにとまって休んでいますが、日没後ゆっくりと飛翔明滅（ひしょうめいめつ）し始めます。見ていると、約3秒に1回の間隔で、「ボー・・・ボー・・・」と明滅します。飛んでいるのはほとんどオスで、いっせいに光る同時明滅が見られます。その際オスは、光り方の違うメスを探しています。

交尾後メスは、水際にあるコケなどに、最大で1000個もの卵を産みます。

約1ヶ月すると卵がかえり、2mmほどの幼虫が出てきます。その幼虫は、翌年の3月頃までに大きいもので2.5cmくらいまで成長します。4月頃になると幼虫は上陸し、柔らかい土の中で蛹になり、その後成虫となります。



富士市での現状

かつては愛鷹山や岩本山の山ぎわ、湧水のある河川などに広く分布していましたが、昭和30年代以降の開発や河川改修などにより、今では岩本山の南部、原田、比奈、江尾などの数カ所でしか見られなくなりました。旧富士川町域では、有無瀬川などで多く見られます。

ゲンジボタルを確認したメッシュ

